

第2回 子ども読書活動推進講座 報告

11月19日(金)福島県立美術館講堂において標記の講座が開催されました。参加者は約200名。

今年度実施の本講座は「子どもを知る」をメインテーマに、第1回は「小学校高学年からの読書」と「図書館利用に障害のある子どもへのサービス」を取り上げました(報告は No.52 2004.9.30 号に掲載)。第2回は「0歳からの絵本」と「幼児期の絵本から物語の世界へ」として二人の講師によるお話を伺いました。

【講義1】0歳からの絵本(講師:渡辺順子氏)

渡辺順子氏は、「すずらん文庫」の運営を通して、絵本や児童書を子どもたちに手渡してこられました。また、乳幼児検診の会場である保健所にも絵本を置き、絵本を通した赤ちゃんとお母さん・お父さんとのふれあいをすすめる働きかけを実施されています。

・「読み聞かせ」をするということは、子どもの心の畑に、種を蒔くことです。大人は芽を出し、花を咲かせることは出来ません。それは子ども自身、長い人生の折々に、一つずつ芽を出し、花を咲かせ、やがて人生の実をつけるのです。(レジュメより抜粋)

【講義2】幼児期の絵本から物語の世界へ

(講師:増山正子氏)

増山正子氏は、長年「まちだ語り手の会」代表として、子どもたちにお話を語り伝える活動をされてきました。また、町田市図書館協議会委員として図書館活動にも積極的に参加されています。ご自宅では「へそ文庫」を開設し、子どもたちに本を手渡す活動もされています。

・楽しく読書へといざなう耳からの読書 物語を聞く物語を聞くことで育つもの…独自の想像力を駆使して、自分の内面に照らし合わせたイメージを作りあげ、おはなしを聞く。(レジュメより抜粋)

講座の概要は当館HP(行事報告)も併せてご覧ください。

全国公共図書館研究集会・児童青少年部門 報告

「一人一人の子どもに読書のよろこびを」をテーマに、11月25・26日に福井市において開催されました。参加者は全国から約480名。

基調講演は、青山学院女子短期大学教授の清水真砂子氏で「今、子どもの本にできること」と題して行われました。

「子どもを取り巻く社会環境において多くの問題を抱えている今日、子どもの本に何ができるのか。優れた子どもの本には様々な幸福のあり方が描かれている。それを読み解く力が、生きていくための大きな力

になっていく」とお話になりました。

基調報告は、日本図書館協会児童青少年委員会委員長の中多泰子氏で、公共図書館の現状と課題について詳細な資料を基に説明がありました。特に、図書館数が増えているにもかかわらず、児童サービス専任の人員が減少していることに危機感を感じているとのお話でした。

分科会は「蔵書を築く」「一人一人に届ける」「学校図書館を考える」に分かれ、「本を選ぶ」「適切に出会えるように」「出会える場としての公共図書館と学校の連携」を研究する内容でした。子どもたちに読書の喜びを届ける活動を、それぞれの立場で行っている方たちの発表と、参加者の熱心な討議が行われました。

この研究集会については後日報告書が作られる予定です。

次回は2006年に北海道で開催されます。

NEWS

ウィットブレッド賞 (1月6日発表)

児童書部門は、1987・1994年に続きジェラルディン・マコーリアンの『Not the End of the World』が受賞しました。残念ながら受賞作は未訳ですが、邦訳作品としてカーネギー賞・ニューベリー賞受賞作の『不思議を売る男』や『ジャック・グリーン伝説』、絵本『おばあちゃんの時計』『リトル・エンジェル』があります。

ニューベリー賞・コルデコット賞 (1月17日発表)

ニューベリー賞は『Kira-Kira』(邦訳『きらきら』シンシア・カドハタ著 代田亜香子:訳 白水社)、コルデコット賞は『Kitten's First Full Moon』(ケヴィン・ヘンクス)が受賞しました。

イベント・講習会 情報

こどもの本WAVE「大きな波を起こそう in みやぎ」

日時:2005年2月5日(土) 10:30~16:00

会場:宮城県中央児童館(仙台市太白区向山 3-18-1)

内容:講演「生命の記憶」田島征三氏

読み聞かせ・紙芝居・手話による歌い読み

講演「2004年こどもの本この1年」広瀬恒子氏

講演「語るよろこび聞く楽しさ」宮川ひろ氏 他

申込:のぞみ文庫 Fax 022-221-4667

【ご質問・情報はこちらへ 福島県立図書館・児童図書研究室】

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218 FAX 024-536-4787

E-mail kodomo@library.fks.ed.jp